

公開講演会

東アジアの 角筆文献から見る 片仮名の起源



韓国の11世紀の高麗版「大方広華嚴經卷六」に角筆で書き入れた注解文
韓国・誠庵古書博物館蔵

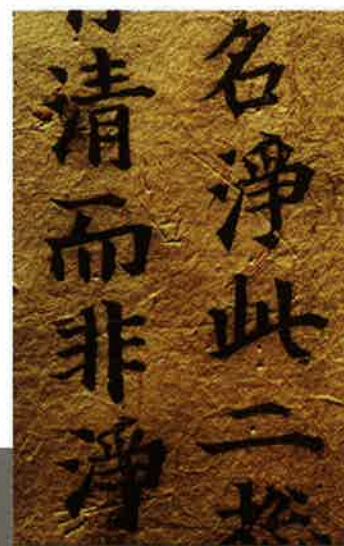
講師 小林芳規
広島大学名誉教授

2007.10.2 火

時間 13:15~14:45 ※開場/12:45

会場 東京女子大学 24202教室
(東京都杉並区善福寺2-6-1)

アクセス JR西荻窪駅または吉祥寺駅より関東バスで
「女子大前」下車



韓国の11世紀の高麗版「瑜伽師地論卷八」に
角筆で書き入れた版名(字吐)とマコト点(点吐)
韓国・誠庵古書博物館蔵

案内 東京女子大学比較文化研究所
●03-5382-6506 (行事案内テープ)
●<http://lab.twcu.ac.jp/icsc/gyouji.html>

 東京女子大学比較文化研究所

申込不要
聴講無料
定員350名

東アジアの角筆文献から見る片仮名の起源

講師紹介

こばやし よしのり
小林 芳規

広島大学名誉教授

1929年山梨県生まれ。東京文理科大学国語国文学科卒業。東洋大学助教授、広島大学教授、徳島文理大学教授を経て、現在、広島大学名誉教授。文学博士。専門は国語学。角筆文献の発見と研究により、日本学士院賞・恩賜賞受賞。韓国の角筆文献を発見し、韓日学術文化交流に貢献した功労で、韓国口訣学会より感謝牌を受く。主著に、『平安鎌倉時代に於ける漢籍訓読の国語史的研究』（東京大学出版会）、『古事記』（共著、岩波書店）、『神田本白氏文集の研究』（共著、勉誠社）、『角筆文献の国語学的研究』『角筆文献研究導論』（いずれも汲古書院）、『角筆のみちびく世界』（中公新書）、『図説 日本の漢字』（大修館書店）など。



講演梗概

片仮名は、平安時代初(9世紀初)に奈良古宗の僧が經典の漢文を訓読する場で、ヲコト点とともに創案したと説かれてきたが、それ以前の奈良時代(8世紀)に源のあることが、角筆文献の発見でわかってきた。

角筆という昔の筆記具で、紙面を凹ませて文字や符号を書く方法とその古文献(角筆文献)が1961年に日本で初めて発見され、その後の46年間に全国から3,350点余りの角筆文献が見つかったが、近年、朝鮮半島や中国大陆

からも発見され、かつて古代の学問方法として漢文読解の場では、共通の筆記方法であったことがわかり、東アジアにおける文字文化の伝流と変容の一経路を、当時の資料によって具体的に比較考察することができるようになった。

その交流の軌跡を尋ね求めるとともに、片仮名の起源が朝鮮半島の新羅にあり、ヲコト点も日本固有ではなく、大陸にまで遡る可能性のあることを論証したい。

アクセス

- JR西荻窪駅北口より徒歩12分
 - バス利用の場合
 - 西荻窪駅北口(1番のりば)から吉祥寺駅行、東京女子大前下車
 - 吉祥寺駅北口(3番のりば)から西荻窪駅行、東京女子大前下車
 - 上石神井駅南口から西荻窪駅行、地蔵坂上下車徒歩5分
- ※車での来場はご遠慮ください。

【所在地】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

